

本書の利用にあたって

本書は「第1部 総論」「第2部 各論」「付録」から構成されています。がん化学療法に携わる医療スタッフにとって治療現場で必要とされる知識や注意点をレジメンごとに簡潔に解説しています。

第1部 総論

がん薬物療法の概要やレジメンの基礎知識、一般的副作用対策などについてわかりやすく解説しています。

第2部 各論

各論では、臓器ごとに代表的な化学療法を取り上げ、各療法のレジメン、ポイント、注意点を解説しています。

1. 肺がん 2) 非小細胞肺がん

IP (CDDP+CPT-11) 療法

	Day 1	8	15	22	28
CDDP	80 mg/m ²				
	点滴静注 (2時間以上)				
CPT-11	60 mg/m ²				
	点滴静注 (90分以上)				

4週間ごと 4コース

【投与前】
1,000~2,000 mLの輸液

【悪心・嘔吐予防】
Day1, 8, 15: ① 5-HT₃受容体拮抗薬 ② リン酸デキサメタゾン 24 mg

【投与後】
① 1,000~2,000 mLの輸液 ② 20%マンニトール 200~300 mL、ラシックス®注 10 mg (必要に応じ投与) ③ Day2, 3: リン酸デキサメタゾン 8~12 mg (遅発性悪心・嘔吐予防)

基本事項

【適応】
非小細胞肺がん
Stage IIIb (胸水貯留・胸膜播種例) およびStage IV

【有効率¹⁾】

薬効率	生存期間 (中央値)	1年生存率	2年生存率
31.0%	13.9か月	59.2%	26.5%

【副作用と対策¹⁾】

	Grade (%)		
	2	3	4
白血球減少	42	43	5
血小板減少	6	5	1
貧血	42	24	7
悪心	32	29	—
嘔吐	38	13	0

1 コース分の投与スケジュールを示しています。連続投与の場合は横矢印で投与期間を表しています

〈基本事項〉
適応、奏効率、副作用といった各療法における必須の知識を解説しています

〈調製時の注意点〉
配合変化・使用可能な溶解液、推奨希釈濃度などを含めた、薬剤調製の注意点を解説しています

● がん化学療法レジメンハンドブック

期間中は対象となる薬剤・食品との併用を避けることが望ましい。

調製時の注意点

【使用可能な溶解液】

[CDDP] 500~1,000 mLの生理食塩水またはブドウ糖-食塩水に混和し、2時間以上かけて点滴静注。

★ Cl⁻濃度が低い輸液を用いる場合には、活性が低下するので必ず生理食塩水と混和。

★ アミノ酸輸液、乳酸ナトリウムを含有する輸液を用いると分解が起こるので避ける。

★ 点滴時間が長時間に及ぶ場合には遮光。

[CPT-11] 500 mL以上の生理食塩水、ブドウ糖液または電解質維持液に混和し、90分以上かけて点滴静注。

レジメンチェックポイント

① 投与前の確認: 輸液の前負荷、制吐薬

② 投与量の確認

【減量基準¹⁾】

CDDP: Ccr>60 mL/min: 減量なし

Ccr=30~60 mL/min: 50%減量

Ccr<30 mL/min: 中止

CPT-11¹⁾ (投与当日):

・白血球数 3,000/mm³未満または血小板数 10万/mm³未満

・白血球数 3,000/mm³以上かつ血小板数 10万/mm³以上であっても、白血球数または血小板数が急激な減少傾向にあるなど、骨髄機能抑制が疑われる場合

上記の場合は、中止または延期

③ 点滴速度の確認

CDDP: 2時間以上かけて点滴静注

CPT-11: 90分以上かけて点滴静注

服薬指導のポイント

① 腎機能障害: CDDPでは予防として水分の摂取を心がけるように伝える (目安: 1.5~2 L/日)

② 神経障害: 手足のしびれなどの末梢神経障害と4,000~8,000 Hz付近の高音域聴力障害が問題となっている。一般的にCDDPの総投与量が300~500 mg/m²以上になると聴力障害の頻度が高くなると報告されており、軽度な聴力障害により軽減することもあるが、不可逆の場合も少なくない。

③ 下痢: CPT-11により早発型、遅発型の下痢が発現する。下痢については、重篤化の予防に協力してもらう。

④ 相互作用¹⁾

CYP3A4阻害薬: 骨髄機能抑制、下痢などの副作用が増強するおそれがある。患者の状態を観察しながらCPT-11の投与量を減量するか、または投与間隔を延長する。

CYP3A4誘導剤: 活性代謝物 (SN-38) の血中濃度が低下し、作用が減弱するおそれがある。CPT-11投与

〈レジメンチェックポイント〉
レジメンの中でチェックすべき重要ポイントを解説しています

〈服薬指導のポイント〉
服薬指導時に特に留意すべき点、患者さんに伝えるべきことをまとめています

付録

巻末に体表面積換算表、本書で取り上げた抗がん剤の一覧表、本文中の略語一覧表を掲載していますので、是非ご活用ください